

アラビア語放送通訳のストラテジーとその手法に関する考察

——アルジャジーラニュースの放送通訳を例に——

アルモーメン アブドーラ

<主なキーワード>

1. 日本のメディアとアラビア語放送通訳
2. 日本でのアルジャジーラニュース放送
3. ア日語による時差通訳に現れるテクニックと言語認知
4. 時差通訳とアダプテーション

0. 研究目的とそのアプローチについて

NHK 衛星放送の二カ国語放送に関しては、これまで様々な側面からの研究がなされているが、アルジャジーラを始めとするアラビア語による衛星チャンネルの二カ国語放送とその通訳プロセスについては一切考察が行われていないのが現状である。そこで本研究の第1の目的は、従来のアラビア語放送とその通訳の研究においてほとんど分析されていない「アラビア語放送の日本語通訳」は、どのようなストラテジーによって訳されているかを明確にすることである。また、第2の目的はアラビア語放送通訳において、通訳・翻訳法とその困難さにどんな原則またはどんな特徴が働いているかを確定することにある。このため、放送通訳（時差通訳）に従事する現役の複数のアラビア語通訳者（9名）にアンケート調査を行うことにしてこれらの目的を達成するために次の課題を取り上げる。ア日語による時差通訳の意義及び、情報の補足や音声表現など時差通訳者に求められる技法とその翻訳過程である。また、その変換プロセスに伴う、両言語の表現における「明示化」または「凝縮化」の翻訳手法について、ア日語の言語体系の相違によって(1)必然的に起こる場合と、(2)言語の組み合わせにかかわらず起こる場合の一部を検証していく。

1. 本研究におけるアラビア語の音韻表記

| アラビ ア語 文字 記号 | 使 用 表 記 | IPA | アラビア 語 文字 記号 | 使 用 表 記 | IPA | アラビア 語 文字 記号 | 使 用 表 記 | IPA | アラビ ア語 文字 記号 | 使 用 表 記 | IPA |
|-----------------------|------------------|-----|-----------------------|------------------|-----|-----------------------|------------------|-----|-----------------------|------------------|-----|
| ء | ' | ʔ | خ | x | x | ص | .s | ʃ | ق | q | q |
| ا | a | ā | د | d | d | ض | .d | ḍ | ك | k | k |
| ب | b | b | ذ | dh | ð | ط | .t | ṭ | م | m | m |
| ت | t | t | ر | r | r | ظ | .z | ẓ | ن | n | n |
| ث | th | θ | ز | z | z | ع | ʔ | ʕ | ه | h | h |
| ج | J | j | س | s | s | غ | gh | ɣ | و | w | w |
| ح | .h | ħ | ش | sh | ʃ | ف | f | f | ي | y | y |

表 1

注：

- ・ ʔ (ターマルプータ) は、次の単語がイダーファでつながるときや女性規則複数形の場合は t、それ以外は h で表記する。
- ・ ʕ (アリフマクスーラ) は á と表記する。
- ・ 長母音は ā ī ū と表記する。

1.1 調査資料及び研究のデータ収集について

本研究では、実際のア日語による時差通訳の分析事例に加えて日本語及びアラビア語それぞれの表現を扱った文献や辞書などから分析対象となる表現を抜き出し、その特性と意味について考察を行った。

1.2 アラビア語用例に関する調査資料

本論文でのアラビア語の例は、アンケート調査による事例を得た他に、作例や検索エンジン google (<http://www.google.co.jp/>) によって検索したものである。また、これに加えて、以下の資料を使用した。

- 1) mu 'jam al-ta 'ābir (直訳：表現辞典)
- 2) al-mu 'jam al- 'arabī al-asāsī lārūs 1999 (直訳：アラビア語基本辞典ラールス / 現代アラビア語大辞典)
- 3) 『al-murshid ilā ma 'ānī al-mustalahāt al-inklīzīyah 2006
-English-Arabic.』 (アラビア語—英語慣用表現へのガイド2006：ア英辞典)
- 4) 『Al-aharam Newspaper』 (アラビア語新聞・電子版の検索データベース)

尚、本研究では、以下の条件を満たした表現を分析対象とする。

- ① 正則アラビア語であること
- ② 動詞による表現であること
- ③ 文語としても、また口語としても使用可能な表現

また、アラビア語の表現例では、動詞の「3人称・男性形・単数・能動・完了形」が基本形となるが、分析の過程では、各用例中の個々の動詞¹⁾の意味を未完了形で明示する。

2. 日本のメディアとアラビア語放送通訳

放送通訳とは、同時通訳であろうと時差通訳であろうと、極限的な状況で言語処理を行う訳出作業である(西村1999)。また、日本で放送通訳という特殊な形態の通訳が最も長い歴史を持って盛んに行われているのはNHK衛星放送である。NHKで衛星放送が始まったのは1989年で、今年で30周年を迎えることになる。衛星放送では、放送通訳はもはや根強く定着しているものとも言える。こうした状況を背景に、本年は、NHK-BS1放送が手がける「カタールの衛星テレビ局アルジャジーラニュース」の日本語による放送通訳がスタートしてから15年目になる。なお、本稿で扱う「アルジャジーラニュース(アラビア語放送)の放送通訳」とは、NHKが手がける、アラビア語から日本語に訳した時差通訳による放送を指す。翻訳と通訳の両方の性質を持っている放送通訳という用語は多義的な概念であるが、放送通訳は、基本的には、「時差通訳」、「同時通訳」、「準同時通訳」と三種類に分けることができる。一方、本研究では時差通訳に限定し「アルジャジーラニュース」の日本語による放送通訳原稿を題材に通訳手法の分析を行う。

「時差通訳」とは、事前にビデオ録画したニュース番組を見ながら訳文をつくり、画面に合わせながら日本語に吹き替える作業を言う。こうした性質の背景には放送通訳とりわけ時差通訳は「聴覚と視覚を使った翻訳作業」であると言える。

放送通訳の仕事は、最初は字幕を作ることから始まったもので、正確には、放送を聞いてニュースの概要をデスクに訳し伝え、デスクが字幕を作るのを手伝う仕事だった(BS放送通訳グループ1988)。

現在、時差通訳業の中心となっているNHKでは、オンエア前に局に入ってきたニュースをビデオ(伝送録画)で聞き取りながら、翻訳原稿を作る準備時間は、番組の編成によってまちまちであるが、原則として1回以上原発言となるビデオを見ることができる。ここが、同時通訳や逐次通訳などの従来の形態の通訳と異なる点である。但し、実際の準備時間内でビデオを見ることのできる回数はせいぜい2~3回であり、その短い時間でわかりやすい通訳のための表現を見つけ、原稿を短時間内に書くという別の負荷が時差通訳に課せられ、極限状態は同時通訳と変わらない。

さらに、他国での放送通訳はほとんどが同時通訳であるのに対し、時差通訳は日本特有のものとして活用されている。また、準備が完了してオンエアになると、通訳者は画面にあわせて原稿を読んでいくので、この点では音声を発しない翻訳作業とも異なる側面を行使することに

なる。テレビを見ている視聴者は、プロの日本語アナウンサーと通訳者を区別しないため、「走り書き程度の手元にはないにもかかわらず、通訳者はアナウンサー並みの delivery を要求される」(小倉・三島, 1999) ことになる。

2.1 日本でのアルジャジーラ放送

17年もの間に試験放送や本放送などを重ねて現在定着している NHK・ワールドニュースによるアルジャジーラニュースの放送通訳であるが、2001年11月9日、日本のスカイパーフェクTV! で一部時間帯における日本語解説を含むアルジャジーラ放送が無料にて放送開始となった。そして、試験放送のまま1年後の2002年9月30日に放送終了することが発表された。スカパーでの提供終了後、普通の衛星チューナーとテレビで気軽に視聴できるアルジャジーラ放送は、NHK BS1の『おはよう世界』のみで聞けること。NHK BS1チャンネルで放映されていた世界各局テレビニュース番組『ワールドニュースアワー』のひとつとして枠が設けられ、日本語による時差通訳(放送通訳)が付けられた。同番組はNHKのチャンネル改編後『ワールドWave』としてリニューアルしたが、アルジャジーラも以前同様に視聴することができる。現在の時差通訳によるアルジャジーラ放送(NHK・ワールドニュース)に携わっている通訳者は筆者を除けば全員が日本語のネイティブスピーカーである(約8人)。

2.2 アラビア語放送(アルジャジーラニュース)の表現上の特徴

① formality (正則アラビア語, フォーマルな表現の使用)

ニュース原稿の作成において、人々の話し方のパターンや日常会話の流れを再現したような文章を作成するのではなく正確な正則アラビア語や格調の高い表現の使用を促している。

② 視聴者に馴染みのない固有名詞

③ 中継によるサウンドバイトが多いこと: アラブ地域各地で街頭インタビューや記者会見などが多くまた、取材地域によっては、現地の方言やイントネーションなどの多様なサウンドバイトが多い。

④ アンカーによる視聴者への語りかけやアンカーの個人的見解を述べている箇所が限定的しかない。

⑤ 慣用的表現や比喩表現の多用

アルジャジーラニュースの放送に採用されているアラビア語の文体とその表現では、インタビューや談話によるサウンドバイトの一部を除いてそれらの全てが正則アラビア語となっている。特に文学的散文と韻文が使われており、またその傾向が顕著である。そのため、メタファーなど比喩は文体的仕組みとして文体や談話の中である種の美的機能(精彩を添える)を果たしたり、また文章効果を高めたりするなど、表現や文体の格調高さを作り出したりする際に有益である。具体的には以下の分析例がある。尚、起点言語の原音例を表す際はSL, 又、目標言語の訳出例はTLとそれぞれの頭文字で表示する。

(1) SL (アラビア語):

مع إنهاء الحرب ، تحرص بغداد واربيل على حسم الخلاف بينهما على مبدأ الإمساك بمعروف او التسريح باحسان

TL (日本語) : バグダッドとアルビールは、今後是一緒になるかまたは別れるかのどちらかで互いの争いにピリオドを打とうと志している (アルジャジーラニュース, 2017/08/23) (NHK BS 放送 ワールドニュース, 以下 WN と表示)

⑥ 時制の使い方

筆者の記録を含む時差通訳によるこれまでの調査の結果では、アラビア語放送による報道では、すでに完了した出来事を扱う場合が多く一般に完了形がよく用いられると指摘できる。アラビア語では過去時、現在時、未来時のテンスは、基本的には、文の前後関係を含めた背景から判断するほかない。ニュースヘッドラインの見出しは主に名詞句、未完了形の動詞を取る名詞文、名詞文の3つのタイプに分けられる。ニュース本体となるVTRレポートでは、未完了形が多用される一方で、リードでは、過去形が用いられる。また、即時性を重視するニュースでは現在の時制、未完了形、が好んで使われている。具体的には以下の事例がある。

1. اسعار البرصة تسجل تراجعاً في نيويورك ولندن (ヘッドラインの見出し)
日本語訳：ニューヨークとロンドン市場では、株価が下がっている。
2. هجوم جديد لقوات النظام السوري على درعة (ヘッドラインの見出し)
日本語訳：シリア政府軍はダラを新たに攻撃した。

3. ア日語による時差通訳に現れる訳出方略と言語認知

ア日語による放送通訳(時差通訳)はまだ歴史の浅い通訳の分野であり、また、その手法やテクニックについてもほとんど確立されていないのが現状だ。言語表現が、一般的な言語理解のプロセスを具現化して見せてくれている可能性を示唆している。ア日語の時差通訳は、時間の面での極限的状态の中で、原発言を即座に他の言語に置き換えて意味を再現する行為である。時差通訳では、その厳しい条件の下での、両言語による表現と発想のいくつかの特徴的な現象を発見することができる(西村1999)。その上で、ニュースというのは、さほど専門的なテーマを扱わないと思われがちであるが、実はそうでもなく、むしろ一定の専門知識や多様な教養力などが問われるのが少なくない分野である。正確には、表現による専門性が高いというよりは、ニュースの中に出てくるそれらの表現の背景にある専門的かつ教養的知識が多く問われる。そのため、通訳もそれ相応の知識や教養的知識、それに伝達のセンスや感覚などを持っていなければならないのである。ここでは、時差通訳を中心に、原音声のコミュニケーション機能を重視する原則の上に、時差通訳のテクニックとして、次の3項目を挙げるができる。

1. 語法的テクニック
2. 編集的テクニック
3. 伝達のテクニック

3.1 語法的テクニック

3.1.1 リスリング力とアラビア語の様々な方言への対応能力

基本的には、日ア語の時差通訳に限らず、放送通訳者が原音声のニュースを通訳するために、(1)「聴解」(2)「訳出」(3)「音声表現」という3段階をクリアしなければならない。

一方、高度なアラビア語の言語能力を持つはずの放送通訳者にとっては、「聞き取りなんて簡単なんだろう！」と思われがちであるが、実は必ずしもそうではない時がある。アラビア語ニュースのサウンドバイトには多様なアラブ世界のあらゆる個別地域や国、社会層の様々な年齢や職業の人々が登場する。プロのアラビア語通訳者といえどもこれらを一回や二回だけで常に聞き取れて、また理解できるとは限らない。そういう時に通訳者が様々な工夫を行い表現処理するのである。以下は時差通訳(WN)の市民への街頭インタビューの際に使用されたアラビア語(イラク方言)による語彙の一例となる。

例：アラビア語・イラク方言)日本語訳)：

باجة- رأس الخروف ، أكلة عراقية شعبية 羊の頭
 أدب سز:- الشخص العديم الأدب ، كلمة تركية الأصل جداً 品のない人
 آرنيف:- إحدى لعبات الدومينو ドミノ
 إشسويت:- ماذا عملت どうしましたか
 أغاتي:- كلمة تستعمل لتدليل المقابل مشتقة من كلمة (أغا) التركية، لقب إحترام 敬称
 أكو:- يوجد ありますか
 براطيل:- رشايوي ، رشى 賄賂
 بزونة:- قطة 猫

3.1.2 表現とその発想による文化的・言語的ギャップの処理能力

ニュースに使用頻度の高い表現や、良く使われる構文がいくつかある。構文に加えて表現とその発想を正確に捉えて訳出することも重要なテクニックの一つである。そして、これはつまり言語の多種多様な構文とその語法の機能を理解することは、日本語のネイティブスピーカーの通訳者はもちろん、また特にノンネイティブの通訳者にとって重要なスキルとなる。

アラビア語・日本語訳の発想……どこが違うか

アラビア語文の日本語通訳者による翻訳を見ると、同じ原文に対処する時にもアラブ人とは違った発想で日本語表現を眺め、その結果、日本人の想定するものとは違うアラビア語訳を作り上げている。どこが違うか、その違いの実態はどのようなものなのか。時差通訳の際に生じるア日語の訳出作業に関わる以下の諸点の明示化とその訳出法について述べる。

(1)ア日語の慣用的比喩表現 (2)無生物主語と構文転換 (3)修辞技法による差異

① ア日語の慣用的比喩表現の明示化とその翻訳

翻訳というプロセスの根底に「起点言語(SL)の意味を目標言語(TL)の手段で改めて再

構成し表現する過程をいう」などの考えがある。これまでの多くの慣用的表現や比喩表現に関する検証研究を踏まえて考えると、TLにおける等価句と類似句による慣用的比喩表現を用いた翻訳方法が可能だと言える。しかし、TLにおける等価句と類似句の数量は限られているということもあって、多くの場合、翻訳者は単語や語結合などによる慣用的表現を用いない方法を使わざるをえなくなる。相当の慣用的比喩表現を用いた翻訳方法は原則として人間生活の内外に関わるものや生物、それに自然の物体などによる慣用的表現の翻訳を可能にする。又、非常に限られた場合であるが、独特な文化の要素や著者の個人的な特徴を表す比喩表現の使い方もこの方法によって正確に訳されることが考えられる。



図1 相当句による意味等価の訳出法のタイプ

A. 類似句による意味等価

慣用的表現の翻訳法を巡って A.V. Kunin (ibid.) が提唱している「類推して訳す方法」に鑑みて考えると、このタイプの訳出法は SL の慣用的比喩表現とその意義構造、またそのイメージの面において異なるが、伝える内容と趣旨が同等である TL の慣用的表現で訳すことだと定義できる。

分析事例：

- (1) (原文・日本語)：坊主憎けりゃ (袈裟まで憎い) 何とやらということであろうか。(イスラーム世界の現在形, 「開戦」は5月下旬 決して突然ではなかったカタール断交, ニュースウィーク, 保坂修司著)

(アラビア語, 訳文)：

هل هذا تطبيق للمثل القائل: إذا كره الشيخ كرهت عمامته؟

(日本文学ブログ, マイサラアフィフィ訳)

意味：師が嫌われるとなれば、その被り物も嫌われてしまうという言い伝えなのだろうか。

上記の(1)は相当比喩による意味等価の事例の一つである。上記の(1)の例から SL と TL の慣

用的比喩表現の意義構造（構成語の意味総和）が異なっていることは明らかである。例えば、SLの「坊主憎けりゃ」「袈裟まで憎い」という慣用的比喩の意味を表すTLの句の意義構造は「師が嫌われるとなれば」「その被り物も嫌われてしまう」というように訳されている。その背景には、上記の原文の「袈裟」をそのまま訳して通じるようなアラビア語は存在せず、また、アラビア語の語彙において「坊主」と「袈裟」のイメージ上のレアリアによる関係性が伝わらないため、原文の意味に近い別の比喩表現に置き換えて訳している。これは上記で示した「異なった意義成分による構造で再構成する」という二つ目による訳出法である。また、こうした対処方法が日ア語または日ア語の比喩表現の訳出において非常に求められる。他にも以下のような“類似句または類似比喩による意味等価”による訳出法の諸例を見ていこう。

- (2) SL (アラビア語) : فهل يقفز الموت عن رقمه هذه المره؟

fahal yaqfiza almaut 'an raqamihi hadhihi almarra?

構成語の意味総和：果たして、死というものは、彼の番号を飛ばすことになるのだろうか。

TL (日本語) : 今度こそ彼は死を免れられるのだろうか？ (ハミースが先に死ぬ, アリーゼーイン アブディン作, 現代アラブ文学選)

- (3) SL (アラビア語) : ghasala ya.dahu min غسل يده (構成語の意味総和：手を洗う)

TL (日本語) : 慣用的意味：さじを投げる。

- (4) SL (アラビア語) : hashara 'anfahu حشأ أنفه (構成語の意味総和：鼻を挟む)

TL (日本語) : 慣用的意味：首を突っ込む。

この訳出法では、SLとTLの慣用的表現の間には、その表現の比喩の形態と意義成分が不一致しているという点が特徴的である。先の例②に取り上げたアラビア語の「死」に関する比喩表現では、この表現をそのまま訳した場合には「死は彼の番号を飛ばした」となるが、これでは何のこともさっぱり分らない訳になってしまうのである。これは「死」の事実を述べている原文とは異なる概念が使用されているからだ。原文の言語と訳文の言語に属する二つの言語共同体には「死は追跡者」という概念的メタファーが一致していないということである。基本的にはSL(アラビア語または日本語)の慣用的比喩表現の意味を完全に分析して、描写・説明などを取り入れて訳すことである。よって、SLとTLの間に生ずる変化が多種の変異をもつと推定できる。SLの慣用的比喩表現の意味をTLでは「死を免れられる」と一つの表現で説明し、訳しており、TLに単語の変化が起きている。翻訳オペレーションは語彙的、統語的、文体的レベルの変化によって行われており、語用論的等価性のレベルを示していると見なせる。

B. 相当句による意味等価

D. Dashdavaa, Ya. Retsker (ibid.) などの考えでは相当語句で訳す方法とは、SLの慣用的表現と意義構造が完全に一致する慣用表現をTLから見つけ出して訳するのがその典型方法である。つまり、相当句で訳す方法とはSLの比喩表現と意義構造、イメージの面で完全に一致す

る RL の相当の比喩表現で訳すという方法となる。また、これには 2 タイプがあって、一つ目は、この翻訳方法で、直訳・文字通りに訳す方法と同じ翻訳オペレーションによって実現されるタイプ（相当語句による意味等価の訳出法）と、もう一つは、TL に SL の意味が異なった意義成分による構造で再構成される（類似句による意味等価）という訳出法だ。この方法では、SL の指示的意味を RL に異なった語彙意義の総和で一致させて実現することである。つまり、SL の句と意義構造・イメージの面で異なるが、結果的に同じ概念・事柄を示す TL の句で訳すことであるため、SL の慣用的表現の意義構造が同じ等価性のレベルを示すことが可能となる。そして、それにとまなう様々な文法的变化も発生する。具体的には以下の分析事例で示したい。

この訳出法では、原文のイメージを損なうことも壊すこともなく、比喩（隠喩）の構造がそのまま日ア語に訳されている。

- (5) SL (アラビア語) :

رحل عن هذا العالم

ra.hala 'an hâdhâ al- 'âlam (構成語の意味の総和：彼はこの世を去った)

TL (日本語)：彼はこの世を去った。

- (6) SL (日本語)：人はなぜ恋に落ちるのか？ (出：www.amazon.co.jp/)。

TL (アラビア語) :

لمانا يقع البشر في الحب؟

(構成語の意味の総和：なぜ人（人間）は恋に落ちるのか？)

C. 日ア語の「メンツ・名誉」……視点と発想の相違

「顔」は、その人自体を表す意味から転じ、その人の面目や名誉などを意味する表現としてよく用いられる。以下に日本語とアラビア語のそれぞれにまつわる慣用的表現を挙げる。

- (a) 日本語の表現例：「顔に泥を塗る」, 「顔が立つ」, 「顔がつぶれる」, 「合わせる顔がない」, 「面の皮を剥ぐ」, 「どの面さげて」等。
- (b) アラビア語の表現例：.hafaza ma' a wajhahu **حفظ ماء الوجه** / .ha-faza ala ma- ' alwajh **حافظ على ماء الوجه** (顔の水を保つ：面目を保つ), khasira ma' a wajhah **خسر ماء الوجه** (顔の水を失う：面目を失う), ra.ttakha wajhahu bi.ti-n) **لطخ وجهه بالطين** (顔に泥を塗る), laisa la daiya wajhu uqa-biluhu bihi **ليس لدي وجه اقبله به** (彼に合わせる顔がない) 等。

- (6) حافظ المنتخب السعودي على ماء وجه المنتخب العربية الآسيوية بعدما تغلب على المنتخب الإيراني
訳：サウジアラビア代表チームは、対戦相手であるイランの代表チームを下し、アジアアラブ地域の各サッカー代表の顔の水を保つことができた。

.ha-faza almuntakhab alsu `u-di ala ma- ' wajh almuntakhaba-t al`arabiya
alassyawiya ba`dama taghalaba ala almuntakhab alira-ni

出典：www.filgoal.com/Arabic/News.asp?NewsID=53995 - 66k

以上のように、本研究の分析では、認知言語学の知見の一つである「概念構造の異同」という考えを元に等価性の新たな指標として「概念的等価性」を設定する。その上で「概念的等価性」による慣用的比喩表現の翻訳法とその意味理解への影響も併せて考察を加えてみる。「概念的等価性」は、慣用的比喩表現の理解にきっかけを与える働きを持つものとして、特定の言語共同体の成員が世界を理解する手立ての一つである。そして、これは翻訳オペレーションでは、起点言語と目標言語における慣用的比喩表現の意味を結ぶ一種の共通的概念があるとして、そして、その共通的概念を共有することによって、私たちは、慣用的比喩表現の意味を理解している。そうでなければ、比喩表現の理解はおぼつかなくなるはずだ。例：人生は旅である。死は移動である。

これは同一又は同種の言語内で起きる現象だけではなく、他言語や非同系の言語の間にも起こり得るものである。また、二つの事物・概念に共通する類似性というのは、二つの事物・概念に類似性が内在しているということよりも、その言語共同体が二つの対象の間に主観的類似性を見出すことを表していると考えの方が適切である（町田・初山, 2002）。そして、その主観的類似性の根底にあるのは、その言語共同体の価値観や言語行動、などを示す「鍵」となる語句「les mots cles」がある（Lenden: Comprendre la Semantique/p2）。そのため、この種のメタファーに基づく比喩表現は世界の言語の社会的かつ文化的環境によって異なるもので、またそうした社会的経験やその通念を基盤とする。

② 無生物主語と構文転換

日本語の文章では、無生物が何らかのもの（特に生物）に働きかける文は、やや不自然に感じる。＜ナル的＞言語であるとされる日本語は、動作主性を与えるのを避けて、副詞的に表現する特徴を持っているのに対して、＜スル的＞言語の性格が強いとされるアラビア語は以下の(7)、(8)のように、抽象的概念にさえ動作主性を付与することができるのが常である。

- (7) 日本語例 a. 失敗して、ジョンは絶望した。
 アラビア語訳 b. **الفشل جعله يفقد الأمل** (失敗が彼を絶望させた)
 al fashal ja 'alahu yafqid al' amal
 失敗 彼を～にした 失う 希望
- (8) 日本語例 a. どういうわけで、ここに来たのか？
 アラビア語訳 b. **ما الذي جاء بك إلى هنا ؟** (あなたをここへ来させたものは何)
 mâ aldhi ja 'a bika ila huna?
 何が あなたをこさせる (連れてくる) へ ここ

以上の例(7)と(8)では、抽象概念を主語としたアラビア語訳に於いて、その表現が自然な点に注意されたい。また、日本語では、すでに多くの研究によってデータ検証されているように、場所や動物などのような無生物を動作主として表現しようとすれば不自然になるということである。以下は日本語表現のその一例となる。

※この町が彼を有名にした（この町のおかげで彼は有名になった）

※ペランダが海を見渡せていた（ペランダから、海が見渡せる）

(9) 原音声：NHK BS1 アルジャジーラニュース（2018/04/25 VTR 中リポート）

لم يخفي الاستقبال الحار في البيت الابيض للرئيس الفرنسي امانويل ماكرون اختلاف المواقف بين الاوربيين والامريكين في التعامل مع إيران

順送り訳出による日本語訳：

トランプ大統領のマクロン大統領への厚い歓迎ぶりは、アメリカとヨーロッパの（イラン核問題に対する）立場の違いをつつみ隠すことはありませんでした。

ア日語の時差通訳：

アメリカ訪問中のフランスのマクロン大統領はトランプ大統領からの熱い歓迎ぶりを受けましたが、イラン核開発問題に対するヨーロッパとアメリカの考えの違いが明らかとなりました。

上記の例(9)では、順送り訳の訳出法を応用すれば、日本語の主語が「トランプ大統領の厚い歓迎ぶり」という訳もなるが、日本語として間違いではないが、やや特殊な（文学的）に見えてしまう。そのため、無生物主語は「読み解いて訳した方が有効」と考えられている。上記の例(9)のア日語の時差通訳の方がより分かりやすくバランスのとれた意味になるのである。

③ 日本とアラブのジャーナリズムとその両言語による修辞法の差異の調整

| アラビア語放送通訳のストラテジーとその手法について | | |
|------------------------------|------------|-------------------------------|
| 日本語とアラビア語の対照修辞法による表現特徴（放送原稿） | | |
| | 日本語 | アラビア語 |
| 立論 | 帰納法、客観的事実 | 帰納法、価値観の違い、 対句的形式美、 主情的 |
| 構成 | 明示的意味、因果関係 | 隠喩的連想 定型句 |
| 論拠 | | 正義、名誉、過去の記憶 |

図2

これまでのアラビア語ニュースの特徴として挙げてきた慣用表現や比喻表現などによる定型句の多様や上記の対照表からも分かるようにアラビア語の文体とその表現では文学的散文と韻文が使われており、またその傾向が顕著である。その上で、アラビア語の表現構成とその修辞法では、主情的、また美的原理に立ち、受け手の感情に訴える傾向が強いのも特徴の一つだと言える。そのため、対句やリズム、反復などの美的な要素が入り込むことが表現法として基本となる。メタファーなど比喻は文体的仕組みとして文体や談話の中である種の美的機能（精彩を添える）を果たし、また文章効果を高めたり、表現や文体の格調高さを作り出したりする際に有益である。その修辞法の構成的特徴の詳細については、具体的には Ostler (1973) が行った分析による構成的特色が挙げられる。

① 主部と術部の語数だけでなく、述部の中でも動詞と補語をそろえる ② 修辞法としての複数の文節の平行体、③ 慣用表現などによる定型句

(9)：原音声：NHK BS1 アルジャジーラニュース (2018/04/25 VTR 中リポート)

لم يخفي الاستقبال الحار في البيت الابيض للرئيس الفرنسي امانويل ماكرون اختلاف المواقف بين الاوربيين والامريكيين في التعامل مع إيران

ア日語の時差通訳：

「アメリカ訪問中のフランスのマクロン大統領はトランプ大統領からの熱い歓迎ぶりを受けましたが、イラン核開発問題に対するヨーロッパとアメリカの考えの違いが明らかとなりました」。

(10)：原音声：NHK BS1 アルジャジーラニュース (2018/04/25 VTR 中リポート)

جاء الرئيس ايمانويل ماكرون ليفتخ الرئيس الأمريكي بجدوى الاستمرار في الاتفاق النووي مع ايران

ア日語の時差通訳：

「マクロン大統領のアメリカ訪問の目的には、イラン核合意の続行の重要性についてトランプ大統領を説得するためだと見られます」。

その上で、トランプ大統領の懸念に対して、マクロン大統領は、現在の核合意に含まれていない「弾道ミサイルの開発」や「シリアやイエメンなどでの地域の活動」監視をできるように新たな枠組みの作成の可能性も併せて提案しました。

3.2 編集的テクニック

アラビア語のニュースアンカー（アナウンサー）の話すスピードや用いる表現方法など日本語とアラビア語の両言語のジャーナリズムとの表現形式の違いを考えると、場合によっては、SLの発言の訳出法を工夫の上、その比率をかなり低くする必要性が出てくるのが必須の課題となる。もちろん、水野（1999）が指摘するように、一般的には「どこまでが原則のある省略や要約で、またどの程度、原文から離れた「意識」になるかについては、絶対的な判断が示されていない」。これについては、これまでに1000回以上のア日語による時差通訳に及ぶ発表者

の経験からや、これまで行ってきたアンケート調査（計9名）のデータでは、理想は7割、実際は7割以上訳出されているということである。その上で、この文化的発想による摩擦を解消するためにはSLの発言の流れに沿った訳出法だけでは処し切れないとする。そして、翻訳の方略法としては、やはり、「正確さ」と「分かりやすさ」を両立するために、通訳者の「編集的テクニック」のスキルの必要性かつ重要性を指摘できる。

（鶴田，1997；小倉・三島，1999；西村，1999；三島・小倉，2000）では、すでにこの「正確さ」と「分かりやすさ」を両立するために、放送通訳者に必要な方略について色々な考察がおこなわれている。また、訳出量と文化的発想による摩擦という二つの問題を解決する方法として以下のような方略が提案してされている。

- ① 情報の圧縮・省略 ② 表現の入れ替え・統合 ③ 文と情報の追加・再構

① 情報の省略・圧縮

a) 情報の圧縮・省略 b) サウンドバイトの特別処理 c) 優先順位で情報とその表現をカットする d) 余剰・重複などを省く

訳出量というノイズに対処するための方略としては、本研究でア日語時差通訳者を対象に行ったアンケート調査結果を元に、訳出時の適性速度を保ち、7, 8割の訳出にとどめるべきだと結論づけることができる。そこで方略の手段として挙げられるのは上記の省略・圧縮方略などの手法である。

ア日語による時差通訳に関する具体的例は以下の通りとなる。

(10)：原音声：アルジャジーラニュース（2018/04/25 VTR 中）

ア日語の時差通訳：

「その上で、トランプ大統領の懸念に対して、マクロン大統領は、現在の核合意に含まれていない「①弾道ミサイルの開発」や「②シリアやイエメンなどでの地域の活動」監視をできるような新たな枠組みの作成の可能性も併せて提案しました」。

上記の例(10)の下線の部分は①原音のアラビア語を定訳による特別処理の日本語であり、また②原音のアラビア語の情報を圧縮・省略したものである。

(11) 原音声：NHK BS1アルジャジーラニュース（2018/04/25 VTR 中のサウンドバイト）

ア日語の時差通訳：

マクロン大統領です：「これまでに繰り返し強調してきたように、イランとの核合意に代わり得る代案なしに現在の核合意を破棄（原音声：辞退）すべきではありません。

これでは良い解決にはなりません。また、以前にも説明した要点を含む包括的な枠組みを打ち出すように努力を集中させるべきだと我々は考えています」

上記の例(11)の下線の部分は、原音のアラビア語をサウンドバイトの特別処理として訳出されている。

(12) 原音声：NHK BS1 アルジャジーラニュース (2017/12/10)

ア日語の時差通訳：

イエメンの反体制派のフーシ派が (ボルカーン 2H 型) 短距離弾道ミサイルをサウジアラビアの首都リヤドに向けて発射したと発表し、これがサウジアラビアに対する新たな対立段階の幕開けだとしています。

(13) 原音声：NHK BS1 アルジャジーラニュース (2017/10/18)

قال رئيس الوزراء العراقي حيدر العبادي إنه يجب فرض السلطة الاتحادية على جميع أنحاء العراق بما في ذلك إقليم كردستان. وأوضح في مؤتمر صحفي في بغداد أنه ليس من المنطقي أن تُمارس السلطة الاتحادية صلاحياتها في البصرة وغيرها من المحافظات، ولا تمارسها في إقليم كردستان.

ア日語の時差通訳：

イラク中央政府とクルド自治政府との対立問題をめぐって、イラクのアバディ首相はクルド自治区を含むイラク全土を中央政府の管轄におくべきだと述べました。その上で、「クルド自治区だけがイラク中央政府の管轄外にされるのは不自然な話だ」と語りました。

上記の例(13)の下線の部分は優先順位で情報とその表現をカット（原音のバグダッドで記者会見が行われたとの部分）するとともに原音のアラビア語の情報を圧縮・省略（イラク中央政府の部分）したものである。

② 表現の入れ換え

(1)音声的になじみのある表現への言い換え (2)定訳の使用 (3)情報の順番を変える (4)漢語表現の選定と言い換え (5)具体的な語で表現する (6)日本語として自然な構文

これは、下記の例の下線部のように視聴者に馴染みのない表現や固有名詞を定訳や一般名詞、漢語表現（情報統合のため）などに置き換えたり、（たとえば、アラビア語の「イラン核ファイル」を日本語訳の「イラン核合意」とすることや、代用が含まれる。

(14a)：原音声：NHK BS1 アルジャジーラニュース (2018/04/25 VTR 中リポート)

هيمن الملف النووي الإيراني على المحادثات التي أجراها الرئيس الفرنسي إيمانويل ماكرون مع نظيره الأمريكي دونالد ترامب في واشنطن

ア日語の時差通訳：

アメリカのホワイトハウスで行われたフランスのマクロン大統領の首脳会談では、イラン核合意をめぐる問題が協議の中心となりました。

上記の1例（14a）の下線の部分は、(1)音声的になじみのある表現への言い換えと(2)定訳の使用による編集的テクニックによる一例として挙げられる。また、下記の分析事例（14b）で

は、ア日語の時差通訳者が原音のアラビア語の長い表現や語彙を統合し、表現の入れ替えの一種としての漢語表現の選定と言い換え（陸海空の部分）で処理している例となる。

(14b) 原音声：NHK BS1アルジャジーラニュース（2018/04/05 VTR 中）

ア日語の時差通訳：

「彼らはサウジアラビアが率いる有志連合に陸海空（漢語表現の選定・言い換え）出入り口や検問所の開放を求めているにもかかわらず、なぜ行動をエスカレートさせるのでしょうか」。

③ 表現と情報の追加・再構成

a) 背景などの明確のための付け加え、 b) 固有名詞などの説明 c) 情報と表現の分節、接続詞の付加

(15)：原音声 NHK BS1「アジアニュース」, アルジャジーラニュース2017/12/27

「内戦状態が続くイエメンでは、サウジアラビアを中心とする有志連合が、イエメン南部のタイズの市場を空爆し、住民20人以上が死亡したということです。

また、今月25日にも有志連合の空爆を受けた、首都サヌアや、ホデイダなどで、女性や子供を含む20人以上が死亡しました」。

(16)：原音声：NHK BS1「アジアニュース」, アルジャジーラニュース2017/12/20

ア日語の時差通訳：

「アメリカのトランプ大統領が中東のエルサレムをイスラエルの首都と認めたことや国連安保理の非難決議案に対してアメリカが拒否権を行使したことなどを受けて、21日にエルサレムの地位問題に関する決議案を採決するために国連総会の緊急会合が開かれる見通しです」。

通訳者はSL（原音声）の発言には出てこないが、ニュースの理解に欠かせない背景情報を追加することになる。これは上記の「情報の追加」や「表現の入れ替え」、それに「再構成」は主に日本語としての分かりやすさを高めるための方略と言える。上記の諸例(15)と(16)では、下線部分は、「内戦状態が続くイエメン」、「サウジアラビアを中心とする有志連合」のように原音のアラビア語に現れていない情報に関する背景などの明確のための付け加え、固有名詞などの説明を加えて処理している。

アラビア語のニュースは、起承転結を重視するピラミッド型の日本語のニュースとは異なり、逆ピラミッド型による構成が特徴だと言える。上記の例(15)については、逆ピラミッド型の「アラビア語のニュース構成」と、下方重心型のようなピラミッド型の「日本語のニュース構成」の違いが挙げられる。時間的制約の厳しい時差通訳では訳文の再構築などに時間的余裕がない中でも、よりわかりやすい時差通訳の訳出のために通訳者は表現と情報の追加・再構成による対処方法を常に意識するようすべきだと小倉（1999）は指摘している。

4. 伝達のテクニック

「通訳・翻訳においては、ことばひとつひとつの意味やシンタックスを重視する翻訳理論から離れ、文脈を把握しながら、具体的な表面構造の特徴を手がかりにしてテキスト全体の内容を訳出すべき」だと西村（1999：73）は指摘する。そのア日語の時差通訳に関する具体的な技法については、BS放送通訳グループ（1998：147-169）と水野（1997）を参考に以下の5つの方法が挙げられる

① 視覚的情報を考慮に原文に沿った訳を心がける。

原音声のアラビア語の文構造にかかわらず、その伝達しようとしているメッセージを重視して、文頭から訳出していく方法である。以下の(17)はその一例となる。この例の下線部分の原音と訳出文には両言語による修辞法の違いが鮮明に現れている。

(17) 原音声：NHK BS1アルジャジーラニュース（2018/04/25 VTR 中りポート）

هيمن الملف النووي الإيراني على المحادثات التي أجراها الرئيس الفرنسي إيمانويل ماكرون مع نظيره الأمريكي دونالد ترامب
في واشنطن

ア日語の時差通訳：

アメリカのホワイトハウスで行われたフランスのマクロン大統領とアメリカのトランプ大統領の首脳会談では、イラン核合意をめぐる問題が協議の中心となりました。

② 分かりやすさと正確さのバランスによる訳出を心がける。下記の既述の分析事例(11)はその一例として挙げられる。

(11)マクロン大統領です：「これまでに繰り返し強調してきたように、イランとの核合意に代わり得る代案なしに現在の核合意を破棄（原音声：辞退）すべきではありません。

③ 論理的つながりを再現する

④ 情報の重要度及び文の焦点を再現

(18) SL. アラビア語：

لهيب الميدان وزخم مكاسبه لا يقل عن سخونة المشهد السياسي العراقي

語構成語の意味総和：イラク政治の場面は戦闘の舞台の熱さとその溢れる成果に劣らずに。

ア日語の時差通訳：

ISに対する軍事作戦とその目覚ましい成果に比べても、イラク政局に関する動きも活発になっています（(アルジャジーラニュース，2107/08/23) NHK. BS1. WN）。

⑤ 声による工夫、様々な役を再現、情報の補足、ポーズを入れる

5. ア日語による時差通訳方略を決める要因について

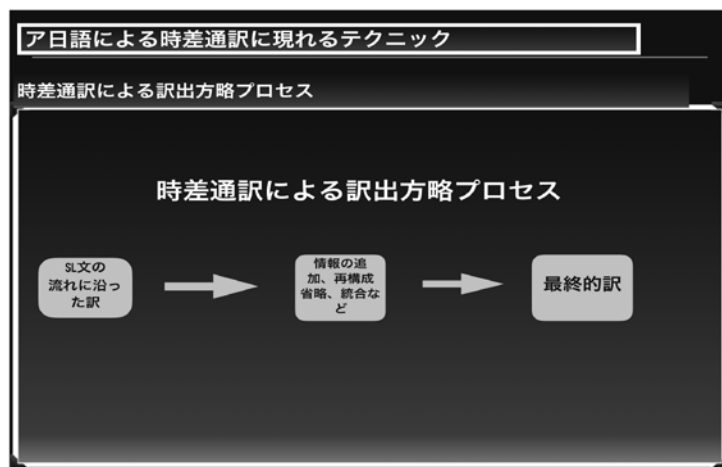


図3 時差通訳による訳出方略

放送通訳者（時差通訳）が上記の翻訳方略を決める一般的には要因は以下の通りである。

1. 言語間の断絶：対応する語彙や表現、文型がTLにない場合に生じる
2. 訳出量・文化の不一致：原音声（SL）で表現されている文脈や見方がTLの文化事象になかったり、また、訳出量が多くなったりする場合に生じる
3. 談話のタイプの不一致：方言や修辞技法による差異など談話のタイプが変わる場合、テキスト全体を再創造することもある

6. 翻訳技法「アダプテーション」の示唆するもの

原音声の時差通訳によって一旦翻訳される過程で、異文化的な要素が代用されたり、省略されたり、あるいは新たな表現が追加されたりすることがある。その程度によっては、本来の「翻訳」と呼ぶには抵抗があるようなグレーゾーンとなる。そうした時差通訳による翻訳プロセスとその周辺部にあるのが「翻意」と呼ばれるものである。また、別の訳語では「アダプテーション」ともよばれている。

本来の「翻訳」というものから外れる領域ではあるが、捉え方によっては、どの翻訳プロセスにも含まれる必須の手法だと言える。また、時差通訳において濃厚な存在として現れるこの種の翻訳手法である「アダプテーション」には、リライトや同化などといった曖昧な概念も含まれている。一方、ニュースの時差通訳による翻訳プロセスにおいては主に優先される「効率の良い機能的・コミュニケーション的翻訳」、「文化的差異の解消・意味の分かりやすさ」を考えれば、その結果、SLとTLの間に何らかの形の等価性を維持しながら、視聴者のために原

音声のニュースをリライトすることも重要な翻訳ストラテジーと応用的な手段になると思われる。

本稿で見てきたように原音声の語彙やシンタクスなどの構造主義による等価を超えて、Richards& Rodgers (1986) のいう機能主義的アプローチ (コミュニカティブ・アプローチ) による機能面、つまりテキストとしての等価を求めようとする意味において、時差通訳全般、とりわけア日語による時差通訳が成り立っている。翻意を、時差通訳に関わりのある翻訳ストラテジーのうちの一つとして捉えた場合、果たして技法として客観的に定義することが可能なのだろうか。一般的に認められている Vinay and Darbelnet (1958) による定義では、翻意は「STで表現されている状況が文化の差により TLの文化や思考に存在しない時に別の状況や表現に作り変える」とされる。つまり、このタイプの翻訳オペレーションでは、全体的に及ぶ「翻意」による方略ではなく、STの特性と機能を維持するための局所的な手段として等価性を図るのである。

7. 今後の課題について、「フィードバック問題、評価システム」

本稿はア日語による時差通訳がどのような翻訳ストラテジーによって訳されているかを考察し、翻訳する根本的な原則をさぐることを目的とした。そのためにア日語の時差通訳の事例を分析の上、放送通訳の一種であるア日語による時差通訳に求められる翻訳方略とその問題点を示すことができた。その上で、ア日語時差通訳による翻訳オペレーションでは、起点言語と目標言語における両言語の表現の意味を結ぶ一種の共通的概念があるとして、そして、その共通的概念を共有するために 1. 語法的テクニック 2. 編集的テクニック 3. 伝達のテクニックとの三つの訳出ストラテジーを提案してみた。そこで、興味深い結果を得ることができた。

アラビア語を含む言語表現一般とその概念的等価性にきっかけを与える働きを持つ時差通訳のテクニック「1. 語法的テクニック 2. 編集的テクニック 3. 伝達のテクニック」と、意識的によりすぐれた通訳を目指して提案されている訳出方略が、結果的に一致するのである。一方、次のような課題も指摘できる。

時差通訳の業務では、本番が終わると、制作室の統括デスクに挨拶し、勤務記録にサインをもらうというのが通常の業務終了の流れとなる。現在のア日語の時差通訳の業務システムでは、訳語の上での指導またはフィードバックのような評価システムは全くない。英語ならともかくア日語の時差通訳の場合は本番前または本番後に間違いの指摘や訳語の上での指導を受けることができないのが現状である。そのため、自分の担当するニュース項目に関しては通訳者が全面的に責任を負うことになる。また、デスクからの指導や評価によるフィードバックがないだけでなく、専門家または仲間の通訳者による批評などによるフィードバックもない状況である。時差通訳による技法の向上の面から、通訳の管理や育成システムという点からも通訳者にあたえるフィードバックの重要性は非常に高い。さらにフィードバックに関して、実際の開発に役立つ形での体系的な研究や書籍はほとんど見あたらないというのが現状である。結果と

しては、少ないニーズや人財の中でも、手法がばらばらなため、不適切な断定や曲解が多く見られることになっている。そのため、今後の課題としては、ア日語による放送通訳（時差通訳）に求められる技法研究や人財育成に必要な評価システムを作ることは必須となる。

注

- 1) 動詞の起源を辿ってみると、古くは命令形が原型であったとされる。また、動詞の時制には、完了形（過去）と未完了形（現在、未来、命令）の二時制しかない。

参考・引用文献

- Brown, H. D. (1994). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy*. Upper Saddle River, NJ: Prentice Hall.
- Dashdavaa, D. (1973). *Sravnitelino sopostavitelinoe issledovanie phraseologii v russkikh i mongoliskikh Gak. V., Retsker. Ya (1963). Perevod phraseologicheskikh edinits. Phrantsusko – russkii phraseologicheskii slovari. [French–Russian phraseology dictionary]. [see the introduction part].*
Moscow.
yazikakh. [Comparative–contrastive studies of phraseology in Russian–Mongolian language]. State University of Moscow. Ph. D. Thesis. Moscow.
- Kunihiro, Tetsuya. 1 (1974a). Culture and system of expression in patterns—a contrast of English and Japanese: in Bates Hoffer ed., *Proceedings of a U.S.-Japan Sociolinguistics Meeting*. Trinity University, 13–24. Lenden (1974) *Comprendre la Semantique. Belgique*
- Hinds, John. (1986). *Situation and Person Focus—日本語らしさと英語らしさ—*. 東京：くろしお出版
- Richards, Jack C. and Rodgers, Theodore S. (1986). *Approaches and Methods in Language Teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Richards, I.A. (1936). *The Philosophy of Rhetoric*, Oxford University Press, Oxford.
- Lenden (1974) *Comprendre la Semantique. Belgique*
- Livovskaya Z.D. (1985) *Teoreticheskie problemi perevoda. [The theoretical problems of translation].* pp. 81–82, Moscow. Nauka.
- Shveitser. A.D. (1988). *TEORIYA PEREVODA: status. Problemi, aspekti. [THE THEORY OF TRANSLATION: status. Problems and aspects].* pp. 80–86, pp. 113–115 Moscow.
- S.E.Ostler (1973). “English in Parallels: Comparison of English and Arabic Prose” In U.Connor&R. B.Kaplan eds, *Writing Across Languages: Analysis of L2 Text* (Addison.Wssley Publishing Co: Reading,Mass), pp.169–185
- Vinogradov. V. V. (1947). *Ob osnovnikh tipakh phraseologicheskikh edinits v russkom yazike. [About main types of phraseological units in Russian language].* 347. Moscow.
- Vinay, J.P., & Darbelnet, J. (1958/2000). *A Methodology for Translation*. [An excerpt from *Comparative Stylistics of French and English: A Methodology for Translation*, trans. and eds. J. C. Sager & M.-J. Hamel, Amsterdam: John Benjamins, 1995, first published in 1958 as *Stylistique comparée du français et de l'anglais. Méthode de traduction*] In L. Venuti (Ed.), *The Translation Studies Reader* (pp. 84–93). London: Routledge.
- アシガイ・デルゲルマー (Ashgai Delgermaa) (2011) 「日モ語の慣用句を翻訳する根本的な原則—

- 日モ語の翻訳を事例に―『翻訳研究への招待』No.5 日本通訳翻訳学会発行
- エカテリーナ・グトワ (本文訳: 奈倉有里) (2010) 「比喩の翻訳法―三島由紀夫の『金閣寺』のロシア語訳について」現代文芸論研究室論集『れにくさ』第2号 東京大学
- アグス スヘルマン スルヤディムリア (1999) 「日本語・インドネシア語における身体語彙慣用句の比較研究―意味分野別構造分析のためのコードづけ基準についての試み―」『日本語研究6 言語と意味』和泉書院
- アルモーメン アブドーラ (2015) 「日本語とアラビア語の慣用的表現の対照研究, 比喩的思考と意味理解を中心に」国書刊行会
- アルモーメン アブドーラ (2018) 「日本語とアラビア語の翻訳に於ける問題点: 慣用的比喩表現の意味理解と翻訳方法をめぐって」『東海大学紀要, 国際教育センター』第8号 pp.13-29
- アルモーメン アブドーラ (2017) 「日本語・アラビア語の視点と表現の相違: 訳と発想をめぐって」『東海大学紀要, 国際教育センター』第7号 pp.109-125
- 安藤貞雄 (1986) 『英語の論理・日本語の論理 対照言語学的研究』大修館書店
- 岩畑貴弘 (2011) 「英語と日本語の構文選択における差異について」『人文研究: 神奈川大学人文学会誌』175 95-122.
- 池上嘉彦. 1996 『英語の意味』大修館書店
- E.G. サイデンステッカー 安西徹雄 (1983) 「日本文の翻訳」大修館書店
- 小倉慶朗・三島篤志 (1999) 「放送通訳をめぐる諸問題」『The』ASEC Bulletin』第8巻第1号 pp.1-10
- 木佐敬久 (1997) 「放送通訳の日本語」受け手調査と話す速度についての研究」文部省科学研究費助成研究「国際社会における日本語についての総合的研究」
- 鶴田知佳子 (1997) 英語ニュースの放送通訳: あるABCニュースに関する一考察『目白学園女史短期大学研究紀要』第34号 pp.115-133
- BS放送通訳グループ (1998) 『放送通訳の世界』(アルク新書8) 東京: アルク
- ナイダ. A. ティーバ. R. プラネン. S. (1973b). 『翻訳―理論と実際』.(沢登春仁, 升川潔訳) 研究社出版 pp.102-105 132-135 154-161
- 中村保男 (1983) 『翻訳はどこまで可能か』ジャパントイムズ
- 西村友美 (1999) 「時差通訳のストラテジーと言語認知」『京都橘女子大学研究紀要』第26号 pp.69-84
- 水野的 (1999) 機能的観訳理論への序章通訳理論研究』第8巻1号 pp.50-77